

釜石発

「大津波」想定訓練



三陸鉄道南リアス線で、列車の運行中に『岩手県沖を震源とする震度6強の地震が発生し、大津波警報が発表された』との想定で避難訓練が行

われました。釜石市で行われた訓練には社員などおよそ30人が参加し、無線で地震の発生を知らされた運転士はトンネルを抜けた直後に列車を止め、乗客役の28人を避難させました。参加者はおおよそ1キロ先の高台を目指し、地震発生の一報が入ってから23分ほどで全員が避難を完了しました。三陸鉄道では乗客の安全を守るため全ての社員に訓練を経験させていて、来月も同じ想定で行うことにしています。(6/25 ニュースエコー)

大船渡発

仮設住宅に慰問活動

奥州市の障害者支援施設「ワークみずさわ」の職員と奥州市の有志でつくられた「演芸みなみ寿座」のメンバー10人が、大船渡市の上平応急仮設団地を慰問に訪れました。



ワークみずさわでは被災者を元気づけようと活動を続けていて7回目の被災地慰問です。施設で作った木綿豆腐やおからのプレゼント、「スコープ三味線」の演奏、「みなみ寿座」は踊りを披露し、住民たちは楽しいひと時を過ごしていました。

(6/26 ニュースエコー)

大槌発

「デコトラ」集合



復興支援のイベントとして豪華な装飾や絵で飾られたトラック、いわゆる「デコトラ」が大槌町に集合しました。北は青森、南は埼玉から集ま

ったトラックはおおよそ50台。「被災地に元気を」と愛好家が企画したイベントで、目玉は映画「トラック野郎」で使われた「一番星号」です。訪れた人たちは記念撮影をしたり実際に座席に座ったりして楽しんでいました。(6/28 ニュース)

山田発

子ども交流センター

山田町の子どもたちが町の復興のために考えた「(仮称)山田町子ども交流センター」の起工式が行われました。この施設は、山田町の小学生から高校生までのおよそ20人で作る「山田町子どもまちづくりクラブ」が『子どもたちが集え、幅広い世代の人が利用できる復興のシンボル』として企画しました。かさ上げが進められている町の復興拠点エリアに建設され、来年春に利用開始の予定です。(6/28 ニュース)



盛岡発

「日大生」IBC来訪



「映像ジャーナリズム」を研究テーマとしている日本大学法学部新聞学科の学生ら8人が「東日本大震災の取材体験や復旧・復興のプロセスにおける報道姿勢などにつ

いて、直接担当者から聞きたい。」と、IBCを訪れました。IBCからは阿部正樹前社長や報道部門の社員が対応し、震災時からこれまで放送した番組を上映しながら、学生たちの質問に答えました。学生たちは「ジャーナリズムが『何のために、誰のためにあるのか』考える良い機会となった。今後の研究活動の参考にしたい。」と話していました。

(6/28・29)

宮古発

さんりく元気ラジオ!

(ワイドステーション内 毎週水曜日放送)

今週はみやこハーバーラジオの箱石文彦さんが7月19日(日)に行われる宮古港カッターレースについて伝えてくれました。宮古港カッターレースは今年で第23回目になり、昨年より14チーム多い計32チームが参加します。市内の強豪チーム「潮騒」や山本正徳宮古市長も参加する宮古市役所「部課長会」などに加え、宮古港開港400周年を記念してカッターレースの強豪、小樽海上技術学校や館山海上技術学校、そして東京海洋大学のカッター部を招待してレースが行われるということです。(7/1)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibt.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122